# TOP INTERVIEW

―これが私の生きる道―

米子商工会議所
役員議員に
聞きました

医療法人養和会
理事長
廣江（ひろえ）　智（とも）氏

## 心と体のリハビリテーションセンターとして地域に貢献できる医療機関を目指す

今回は令和元年11月より米子商工会議所副会頭にご就任されました、医療法人養和会　理事長　廣江　智氏にインタビューさせていただきました。

### 時代に合わせてサービスを増やしています。

▶ 会社の歴史や事業内容について教えてください。

私の祖父である「廣江（ひろえ）　和一（わいち）」は、安来市西松井出身で、叔父と診療所をしていたようです。元々祖父は精神科の仕事に携わりたいという思いがあったようです。そこで、叔父になる後藤家の発展に寄与された「後藤（ごとう）　快五郎（かいごろう）」へ相談したところ、米子市内に土地を貸してもらえることとなりました。昭和５年８月に米子市郊外住吉村に「米子脳病院」を開業しました。山陰で最も古い精神科の病院になります。

当時の住吉村は、無医村で子供が怪我をしたり、大人が熱を出しても「脳病院に」と言って来院される住民の方が多かったようです。

昭和18年に当時の財団法人米子病院（現：鳥取大学医学部附属病院）と名前が似ていることから「広江病院」に改名しています。戦後になると、それまでは医療機関の法人という概念はなかったのですが、アメリカでは株式会社が病院を持っている時代であり、医療機関のマネジメントがなされていました。日本もその影響を受けて法制化され、医療法人が設立されるようになり、当院も昭和26年に医療法人化しました。

昭和の時代は、一貫して精神科の病院として活動してまいりましたが、昭和の終わり頃から認知症の方が増加し、高齢者の医療に携わるようになったことで、リハビリの診療科目に注力するようになりました。平成に入ってからは、以前の病棟から時代のニーズに合わせた変更を加え、平成７年に新病棟が完成しました。また、「広江病院」というと精神科の病院というイメージを持たれる方が多いと思いますが、今では精神科以外も行うようになりましたので、平成18年には「養和病院」に改称しました。

これまでは、精神科の治療を主軸に行ってまいりましたが、現在は退院後のサポート、生活支援や就労支援等も行っています。また、予防から地域生活支援等を横断的に行うとなれば、社会福祉法人も必要になってきます。昭和は医療だけでしたが、平成は介護、現在では福祉と時代に合わせてサービスを増やしており、国のサポートも受けながら現在はこの３本柱で事業を行っています。

### スタッフを集めるために様々な手法を活用しています。

▶ 人材の採用・人材育成や教育について心がけていることは何ですか。

米子市の高齢化スピードは都市部に比べ早く、今後さらに高齢化が進むことはありませんが、労働人口は確実に減っていきます。そうなれば、どの産業においても人手不足となり、特に私たちのような業種においては、今後も利用者の方が減ることはないので、働き手が不足すると病院等だけでなく利用される方にも不利益となってしまいます。

▲就労支援活動の様子

私たちも様々な手段を講じて、人材確保に努めています。以前は、医師会館の中に准看護師の養成の学校がありましたので、当院で学費を持ち、学校に通っていただきながら雇用するということも行っていました。現在その学校はなくなってしまったため、そのようなことは出来なくなってしまいましたが、奨学金制度は残しており様々な資格を取る制度の柱にしています。また、海外からの労働者も私どもの業界に就労できる制度になり、インドネシアやカンボジア等からの実習生を雇用するという形態も行っています。

また、病院は圧倒的に女性が多い職場ですが、当院は元々が精神科病院であるため男性スタッフが多く在籍しています。今後も男性スタッフは必要であり、どのような方法であれば男性スタッフを集めることができるかを考えました。検討する中で、野球部を作り運動できる人材を集めることにしました。資格を取得するための勉強と野球を両立させながら、今では野球部員ほとんどが看護師・介護福祉士・リハビリの資格等を持っています。元々スタッフを集める目的で野球部を設立したのですが、今では地域の子供達への野球教室を開催したりして、地域貢献の１つとしても活躍しています。

### 地域の中でのオンリーワンに！

▶ これからの事業展開をどのようにお考えですか。

地域包括ケアシステム（厚生労働省が策定している2025年に向けてのシステムの指針）の一翼を担えるようになっていきたいと考えています。そのためには、国の施策に則って事業を行うだけでなく、更にその先を見据えて事業を行っていかねばなりません。昭和の時代は精神科医療のみでしたが、昭和の終わりから高齢者医療に取組み、平成になるとリハビリテーション事業を行うようになりました。当院の例では、鳥取県で第１号の介護老人保健施設の設立、リハビリ病棟の建設等、その時代の施策やニーズにあった事業へ変えています。

最近は精神科に入院する方は減少し、薬でもある程度対処できるようになりました。これは医学の進歩と国が「メンタルヘルス」を重視してきた結果だと思います。日本の主な死因の１つに自死があります。自死はメンタル的なものがないと起こりません。それを踏みとどまらせるためには、様々な対応や相談等を行えば助けることができるようになるのではないかと思います。また、高齢者になると身体能力が落ちることにより、様々な疾患を発症することになります。発症後、元の生活に戻れるようにしていくためには、その後の活動がとても重要となります。そこでリハビリテーションが重要になる為、病棟を作りました。

医療・介護・福祉を行う事業所は、この地域でも少なくありません。当グループでは、グループ内での連携と、他の事業所の皆様との連携を深め、独自性や強みを捉えて、地域の中でオンリーワンの企業になっていきたいと考えています。このことが、地域包括ケアシステムに生きていくと考えています。

### 時代の流れに対応できるものしか残らない

▶ 読者の方に今後の抱負とメッセージをお願い致します。

介護老人保健施設は2019年の30周年、病院は2020年に90周年、法人は今年70周年と長い年月、この地域で事業をさせていただいた部類に入ってきました。現在は病院の100周年に向けてのプロジェクトチームを作り進めている最中です。先ほどお話ししました、地域包括ケアシステムが機能すれば、今後の高齢化社会も乗り越えていけると思うので、養和会グループもその一翼を担えるようになりたいと考えています。

ダーウィンの言葉に「強いものが残るのではなく、時代の流れに対応できるものしか残っていけない」とあり、私もそのように思っています。これからも時代の流れを敏感に捉え、「心と体のリハビリテーションセンター」として地域に貢献し、地域の人に愛されるように頑張っていきたいと思います。

▲リハビリテーションの様子

■企業DATA

医療法人養和会

〔所在地〕　米子市上後藤３丁目5-1

〔設　立〕　昭和５年８月

〔事業内容〕　医療サービス、介護サービス、福祉サービス

〔代表者〕　理事長　廣江　智 氏

〔従業員数〕　680名（グループ全体）

〔H　P〕 https://www.yowakai.com/